人と自然が
豊かな環境をつくりだす

山崎山

山崎山

みなさんは「緑のトラスト運動」を知っていますか。学校では、児童会が「さいたま緑のトラスト」募金活動をしています。これは、埼玉県のすぐれた自然や貴重な歴史環境をみんなの共有財産として保全していこうとする取組です。実は、「緑のトラスト」と宮代町とは深いつながりがあるのです。

動物公園と笠原小学校にはさまれた道のゆるやかなカーブを下ると、「新しい村」の広場がひらけ、その先に目を向けると景色は一変し、大小さまざまな木々がたくさん伸びる雑木林が広がっています。ここが、さいたま緑のトラスト保全第5号地「山崎山」です。ぼくは、今、ここで月に一回「山崎山こどもエコクラブ」の一員として活動しています。どうしてぼくが「山崎山エコクラブ」に入ったのか、そこでどんな活動をしているのかを紹介します。

ぼくは、昆虫や水辺の生きものが大好きで、学校でも休み時間や放課後には、トンボやトカゲ、クワガタムシやザリガニを追いかけています。母といっしょに「新しい村」へ来るたびに気になっていたのが、緑が生いしげるこの雑木林でした。（この林には、カブトムシやクワガタムシがたくさんいるだろうな。でも、暗くて一人で行くには少しこわい気もする…）

夏休みになり、ぼくは、友だちをさそって出かけました。林の入り口には川が流れていて、水中ではザリガニがあちらこちらで勢いよく土煙をたてています。中をのぞくと薄暗く、夏でも少しひんやり感じます。ふだん耳をふさいでしまうようなセミの鳴き声も、林の中に吸い込まれたかのように心地よく聞こえます。入り口には「緑のトラスト山崎山」と書かれた案内板がありました。

夕食時の家族との会話で、「山崎山」で活動している「こどもエコクラブ」が、メンバーを募集していることが分かりました。（あの林ならカブトムシだけでなく、オオクワガタなどもっとめずらしい昆虫がとれるかもしれない。クラスのみんなにじまんできる。）と思い、ぼくはすぐに入会しました。

しかし、エコクラブの活動はぼくの期待や予想とは違い、生きものを虫かごに入れて持ち帰ることはできませんでした。観察が中心で、林の中の下草をかる作業や間伐といって、木と木の間隔がせまくならないように余計な木を伐る作業もありました。

ぼくは、この作業は好きではありませんでした。それは、夏でも長そでを着て、流れ出る汗と、ようしゃなく攻げきしてくる蚊をふり払いながらの作業だからです。ぼくは、投げ出したい気持ちになりました。（自分が思っていたことと違うな。自然を守るのだったら何もしないで自然のままがいいのではないのか。どうしてこんな作業をするのだろう。それより、さっき見つけたクワガタが欲しいな。）

半分投げやりになっていると、中学生やボランティアの人たちの楽しそうな会話が聞こえてきました。

「アブラゼミの羽化を見たことがあるかい。」

「ぬけ殻や幼虫が地面から出てきた穴を見たことはあるけれど…。」

「セミの羽化は、夜中に始まるんだ。地面からはい出た幼虫は、木の幹や枝に止まり殻を脱いでいくのだけれど、あの茶色く硬い羽は、その時にはやわらかく、すき通るようなエメラルドグリーンできれいだよ。七年も土の中にいて、地上ではわずか七日足らずの命をこれから生きていくのだなと思うと、『がんばれ』って応援したくなるんだ。」

「今度、わたしたちも観察したいな。」

ぼくは、セミの羽化は図かんでは知っていたけれど、実際に見たことはありません。でも、きっとセミは鳥などの天敵が活動しない夜に羽化することで自分を守っているのだと思いました。

やっと休み時間になりました。水筒の水をがぶがぶ飲んでいるぼくの横に、指導員の方が座ってこんな話をしてくれました。

「大変だったけれどきれいになったね。どうしてこんな下草をかるのかと疑問に思ったかな。でも、実は人間が手入れをしないと山や森は荒れてしまうんだ。特に、『山崎山』は里山といって、昔から人間が手をかけてあげることで、豊かな恵みや様々な生きものの命をはぐくんできたんだ。つまり、自然やそこに住む生きものも人間と関わってずっと続いているんだ。だから、みんなでこの大切な林を保護するんだよ。今度、夜の観察会があるけれど来るかい。」

「はい、セミの羽化を見たいです。」

汗ばんだ顔をタオルでぬぐうと、林から涼しい風が心地よく通り過ぎていきます。ぼくは、人間と自然、生きものや植物とのつながりについてもっと知りたいと思いました。

夜の「観察会」は、驚きの連続でぼくにとって忘れられない思い出となりました。秋には、林の中でとれたキノコでなべを囲んだり、クヌギやコナラの苗を植樹したり、どんぐりごまや藤づるのリースを作ったりしました。もちろん、下草がりや間伐作業も続けています。でも、やっぱり「山崎山」に生息する生きものとの出会いや、四季とともに変化する植物の姿を見るときが一番わくわくして楽しいです。

今、ぼくにとって「山崎山」は、とてもビッグで大切な虫かごなのです。

※　「山崎山」は、宮代町に住む人と自然が共存し合ってつくってきた大切な環境です。宮代町では、その豊かな環境を保全するため埼玉県に働きかけ、２０００年に「緑のトラスト保全地」として指定を受けました。埼玉県東部地域では、現在「山崎山」だけです。

人と自然が豊かな環境をつくりだす「山崎山」資料1

山崎山とそこに棲む生き物

「山崎山」の四季のようす

カブトムシの幼虫

キタテハ

サルトリイバラ

スズメバチの巣

テントウムシの幼虫

自然観察・環境の保全活動

●「山崎山こどもエコクラブ」の活動

●「コナラ」の植樹

●自然観察

●雑木林の保全活動

●間伐作業

人と自然が豊かな環境をつくりだす「山崎山」資料2

緑のトラスト保全第五号地「山崎山」と周辺の豊かな恵み

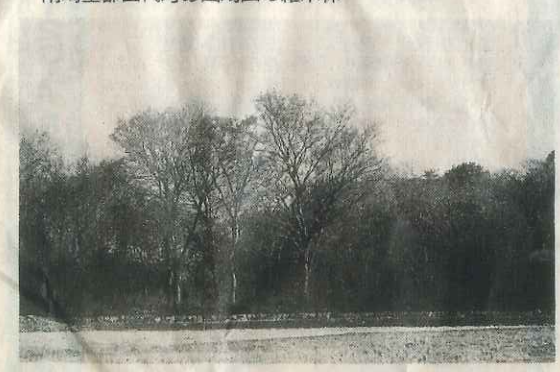
「山崎山遊歩道」

山崎山周辺の豊かな恵み

「新しい村」

「ほっつけ」の風景

県のさいたま緑のトラスト基金保全対象地に選ばれた南埼玉郡宮代町の山崎山の雑木林



緑のトラスト地 また増えたよ

田園地帯の原風景

宮代 山崎山の雑木林

さいたま緑のトラスト基金の保全対象地に選ばれた南埼玉郡宮代町の山崎山の雑木林は、町のほぼ中央部。同町が一九九八年度から五カ年計画で進めている「山崎山周辺環境整備事業」地域（約百六㌶）の北側に位置している。

山崎地区は東武伊勢崎線東武動物公園駅西口から約一㌔と市街地に近く、集落や山林、水田がバランスよく配置されている。水田地帯には、江戸時代中期に低湿地帯の開墾法として行われた「ほっつけ」と呼ばれるくし状の堀が現存、貴重な田園地帯の原風景を形成している。

雑木林にはアカシデやアカメガシワ、クリ、コナラ、アカマツなどの樹木が混在、周辺の水路ではヘイケボタルやカワセミの生息も確認されている。町は今回の対象地の一部を九七年に買収するなどして、町づくりの一環として山崎地区の自然環境保全に力を入れてきた。

榊原一雄町長は「山崎山は住民の生活に密着した風光明美な地域。限りある緑の保全のため、より一層、ふるさと埼玉の原風景を次世代に承継していかなければと痛感している」と話している。

4月25日 火曜日
2000年（平成12年）
発行所
埼玉新聞社
浦和市岸町6丁目12番11号
（郵別郵便番号336-8686）
電話 代表048（862）3371～4
編集（直）862-3269～71
郵便振替 00180-2-20988

宮代の山崎山 入間の加治丘陵

緑のトラスト2カ所

県が選定

県は、優れた自然や歴史的景観を乱開発からまもるため民間寄付などを資金に行政が土地を取得する「緑のトラスト運動」の対象地として、新たに南埼玉郡宮代町山崎の「山崎山の雑木林」と入間市寺竹「加治丘陵・唐沢流域樹林地」を選定したことを二十四日、発表した。選定は四年ぶりで、県内のトラスト保全地は六カ所になる。両地域はほとんどが民有地で、県は今後、外郭団体「さいたま緑のトラスト協会」（理事長・土屋義彦県知事）が管理する基金を活用し、地元市町とともに買収を進める。

（19面に関連記事）

選定された「山崎山」は、山林と水田、屋敷林が広がる田園風景で、対象地域は約一・四㌶。そのうち既に約〇・二㌶は宮代町が保全のため取得している。「加治丘陵」は、落葉広葉樹林と針葉樹林が混在する豊かな森林環境が特徴で、オオタカなど貴重な動植物が多い。対象地域は約十三㌶で、うち約一・八㌶は入間市が買収済み。

選定は、同協会内の「トラスト検討会議」（座長・竹内正幸元埼玉大学長）が行った。過去三回の選定で候補に挙がった地域を中心に、選定地の県内バランス、地元の保全に対する意欲などが考慮された。

両地域の土地の買収方法や時期、区域などは今後、県と地元市町で協議して決める。これまでの例では、買収費用は県が民間寄付や県の積立金による「さいたま緑のトラスト基金」が三分の二を負担し、残りの三分の一を地元が負担金として拠出するなどしている。トラスト基金残高は現在約二十三億八千万円で、両地域の買収にかかる総額は約十億円とみられている。

県は、一九九〇年に浦和市「見沼田んぼ斜面林」、九四年に所沢市「狭山丘陵・雑魚入樹林地」、九六年に比企郡嵐山町「武蔵嵐山渓谷周辺樹林地」と飯能市「飯能河原周辺河岸緑地」を保全地に指定、四カ所とも買収はほとんど終わっている。四カ所合計の取得面積は約二〇・三㌶、経費は三十七億五千四百万円。

道徳資料「山崎山」によせて

前宮代町長　榊原　一雄

ここに、「埼玉緑のトラスト基金」保全地域に選ばれた宮代町の雑木林に関する道徳資料「山崎山」が刊行されました。宮代町に育つ子ども達が、「山崎山」について学び考える機会が設けられたことは、私にとってもこの上ない喜びです。

思えば一九九七年頃、私は、町づくりの一環として山崎地区の自然環境保全に力を入れていました。それは山崎地区が、古くは先土器時代約一万三千年前から人々が移り住み、縄文時代後期には既に付近一帯に大規模な集落が作られていた（多くの遺跡の発掘により明らかとなった）という歴史的にも貴重な地域であるためです。さらに、「山崎山」は周辺の屋敷林と一体となっており、郷土を代表する緑豊かな景観をなしています。私はこの地を、宮代町の原風景として長く保全していかなければという使命感を強く認識しました。しかしながら、ここは私有地であり、いつか売却されてしまうのではないかという懸念がありました。

そこで、町の施策として山崎山周辺環境整備事業「新しい村」を定め整備を進めることにしました。そんな折、埼玉県が緑のトラスト保全事業を推進しているのを知り調査を行いました。その結果、「山崎山」が緑のトラスト保全第5号地として、埼玉県より認定を受けました。

あれから十年になりますが、ボランティアの方々によって保全されていることに深く感謝をしております。

これからは本資料を活用して学んだ皆さんが、緑豊かな「山崎山」を愛し、大切にしてくださることを心から願っております。

「山崎山」の自然が人を育てる

宮代町立前原中学校教諭　八木橋　孝雄

「これだけ自然環境に恵まれた里山が、埼玉の東部にあるのですか」と訪れた人が感動する「山崎山」を舞台にした道徳の資料ができたことに感慨無量です。

平成十二年、さいたま緑のトラスト保全地（五号地）に山崎山が選定されてから、自然環境や保全作業に係わった私としては、ほんとうにうれしく思います。

観察会に参加した子どもが「トンボのからだは柔らかくないんだ」と言ったことがありました。トンボの形や色は知っていても、本物に触れてみないとわからないことがあります。この素晴らしい環境を子孫に残し、五感を使った体験を通して、人間性豊かで、思いやりがあり、命を大切にする子どもを育むことが大切なんだと感じました。また、「季節の変化を、カレンダーや行事からだけでなく、日の長さや動植物の変化からも感じとれる。そんな感性を子どもたちが持ってほしい」とも願っています。

子どもたちが、この資料を通して身に付けた心をしまい込まず、その心の思うまま活動する機会を設け、新たな心が育つことを願っています。

山　崎　山

宮代町文化財保護委員　岩上　孔昭

暑い夏に「山崎山」に入るとあまりの涼しさに驚きます。林の中は緑の世界で柔らかい下草の中から大小様々の木々が伸び太陽の光を受止めています。蝉の声が聞こえるだけで静かです。

遊歩道を歩くと木々の間を、ちょうやとんぼが飛び、草の中には小さな虫が沢山いるのが分ります。県の絶滅危惧種に指定されている植物も生育しています。山崎山は多くの生命を育んでいます。

木々の枝が払われて光が差し込んでいる所があります。近づいて見ると、コナラの木が植樹され「元気に育て」と書かれた札が付いています。林がよく手入れをされていると同時に、可能な限り自然の姿で保全しようとしていることが分ります。

山崎山が保全地になって十年余、見事に保全活用されている様子を見るにつけ、町当局を始めトラスト五号地ボランティアの皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

私は山崎山を誇りに思うと同時に、この地に常に心を寄せ「守り育てていかなくてはならない」と思っています。

■「山崎山」道徳資料刊行に当たって

「山崎山」刊行に際して

宮代町長　庄司　博光

宮代町は、現在、「緑かがやくコンパクトシティ」をキャッチフレーズに町づくりを進めております。その中核の一つに、「山崎山」を含めた「新しい村」周辺を、人と自然とが織り成す原風景として位置づけています。

ここ二年間、町内の各学校を訪問し、小学校六年生と中学校二年生のクラスで「若葉会議」を行っております。

そこで宮代町で自慢したいこと、町のよいところを質問すると、必ず返ってくる言葉が、「緑がいっぱい」、「自然が豊か」ということです。これは、これまで宮代町の教育で「環境」の大切さを扱ってきたこともありますが、子ども達自身が日々の生活の中で感じ取っているのだと実感しました。きっと子ども達は、宮代町の森や林、田んぼや川で遊んだ経験が豊富なのだろうと察します。さらに、未来の宮代町についても、豊かな自然を残す中で、町の発展を考えている生徒が大勢いることに驚きと同時に感動を覚えました。

この度、埼玉緑のトラスト第5号地「山崎山」が道徳資料として作成されたことは、こうした子ども達の思いと、宮代町の町づくりとが豊かに実現していく架け橋となってくれるものだと思います。今後の宮代町を背負う若い世代として活躍してくださることを願っています。

「山崎山」刊行に寄せて

宮代町教育委員会教育長　桐川　弘子

宮代町の道徳郷土資料として、三作目の刊行である。これまで、「島村盛助」（郷土の偉人）、「どんぐりピアノ」（資料室に人知れず置かれていたピアノにまつわる温かな村人たちの話）では、人・ものを題材として作成した。今回は「自然」に関する内容である。環境教育を推進してきた町として、私は以前から埼玉県緑のトラストの保全地域に指定された「山崎山」に強い関心を抱いてきた。笠原小学校に勤めていたころ、生活科や総合的な学習の時間で子どもたちと一緒に何度か訪れ、かつて子どものころ体験した風景が温存されているのを感じ、強い衝撃を受けた記憶がある。平成十二年に指定されたのであるから、私が初めて訪れたのはその直後の頃である。宮代の地に里山があり、それを守り保存していこうという町姿勢にも私は深い感動を覚えた。

養老孟司の書物に「里山は人と自然が共存してこそ維持できるものであり、そこには人が介在することによって生まれた生態系が保存される」とあった。そこに生息する植物群、それを求めてやってくる昆虫や鳥類。それは人の手入れがあってこそ営まれ循環されていく。現在、前原中・八木橋教諭を核に手入れが行われている。町民のみならず、町外の方々の協力によって保全されているのが現実である。しかし、永遠に今の態勢が続くことはない。このままでいいのだろうかという懸念が次第に私の中に増幅してきた。地域を守るのは地域の人間であり、将来を担うべき子どもたちに他ならない。郷土宮代に、人と自然とが作り出す豊かな環境の地「山崎山」の存在意義に気づき、自分たちで守ろうとする意識をもって欲しいという強い願いから、本道徳資料を作成した。作成にあたり、前原中・八木橋教諭はじめ資料提供くださった方々に感謝いたします。

■この本を作るのに、ご指導ご協力をいただいた方々（敬称略）

元宮代町長　榊原　一雄
宮代町文化財保護委員　岩上　孔昭
元岩槻市立和土小学校校長
さいたま緑のトラスト五号地ボランティア代表　八木橋孝雄
宮代町立前原中学校教諭

■この本を作成した人

宮代町長　庄司　博光
宮代町教育委員会教育長　桐川　弘子
宮代町立百間小学校校長　内田　健一
宮代町教育委員会教育推進課長　篠原　敏雄
宮代町教育委員会学校教育室長　大塚　健嗣
宮代町教育委員会主幹兼指導主事　白石　薫
宮代町教育委員会指導主事　鈴木　修平

表題
宮代町教育委員会教育長　桐川　弘子

挿絵
宮代町立須賀中学校教諭　吉田　博文

－人と自然が豊かな環境をつくりだす－

山　崎　山

編集・発行／宮代町教育委員会